

## 防災学習の目標

### ■目指す子供の姿（防災学習と気候変動環境学習共通）

将来に夢と希望を持ちながら  
 防災や気候変動対策の意識を持って行動し、  
 たくましく生きようとする子供

防災学習の内容は地震や風水害などの災害であり、気候変動環境学習では地球温暖化である。どちらも最悪の事態を想定した内容を取り扱うため、どうしてもネガティブ思考になりがちである。危機意識を持たせながらも、正しい知識や技能を身に付けてともに行動していけば、課題を解決することができるという「夢と希望」を持たせ、たくましく生きようとする子供の姿を目指していく。

### ■防災学習の目標

既存の教科・領域と同様に、編成する防災学習においても三つの資質・能力に整理して目標を設定した。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことをとおして、自助と共助の防災力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 災害の種類や特徴、発生メカニズムや被害、復旧・復興等について理解するとともに、危険から命を守る方法や災害に備える技能を身に付けるようにする。  
【知識及び技能】

(2) 身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を養う。  
【思考力・判断力・表現力等】

(3) 震災の教訓を受け継いで伝え、他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。  
【学びに向かう力、人間性等】

防災学習で身に付けさせたい力は、自助と共助の意識を持って行動していく防災力である。小学校の段階では自らの安全を確保する自助の力を育てる中で、周りの人や地域のために役立とうとする共助の素地を養う。自助と共助はそれぞれ相反するものでなく、自助の行動が共助につながり、共助の行動もやがて自助につながるなど、互いに重なり合うものと捉える。

## 防災学習の内容

三つの資質・能力を受けて、防災学習で取り扱う内容を A～F の六つに構成した。さらに、六つの内容構成を 20 項目に細分化した。

- A 災害等の理解に関すること。(災害等の理解)
  - (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
  - (2) 発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
  - (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
  - (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。※公助
- B 危険から命を守る方法に関すること。(命を守る方法)
  - (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
  - (2) 情報を生かす方法を理解する。
  - (3) 応急手当の方法を理解する。
  - (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
- C 日常の備えに関すること。(備え)
  - (1) 家庭での備えを理解する。
  - (2) 学校や地域での備えを理解する。※公助
- D 危険の予測・判断に関すること。(予測・判断)
  - (1) 危険を予測する。
  - (2) 安全に行動するために適切に判断する。
- E 支援者の基盤に関すること。(支援者の基盤)
  - (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
  - (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
  - (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
  - (4) 他者との関わりを持とうとする。
- F 社会貢献に関すること。(社会貢献)
  - (1) 被災者を支援しようとする。
  - (2) 教訓を伝えようとする。

(3) 家庭や地域に役立つとする。

(4) 夢や希望を持つとする。

A～Cは「知識及び技能」に関する内容、Dは「思考力・判断力・表現力など」に関する内容、E～Fは「学びに向かう力、人間性など」に関する内容となっている。

## 防災に関する知識及び技能の具体的な内容

防災学習で取り扱う内容 A～C の「知識及び技能」では、具体的にどんな内容を取り上げるかを次のように設定した。対象学年は第 5、6 学年を想定した。第 4 学年以下の学年は、発達段階に応じて内容を取り上げる。

分野	項目	具体的な内容	用語等
A 災害等の理解に関すること。	(1) 災害の種類や特徴等を理解する。	ア) 地震の特徴を理解する。 イ) 津波の特徴を理解する。 ウ) 風水害の特徴を理解する。 エ) その他の災害の特徴を理解する。 (雷、竜巻、噴火など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震度 0～7</li> <li>・ 起震車「ぐらら」</li> <li>・ 津波の速度</li> <li>・ 津波の第 1～3 波</li> <li>・ 雨の強さ(1 時間雨量)</li> <li>・ 風速</li> <li>・ 雷の音と光</li> </ul>
	(2) 発生メカニズムや災害による被害等を理解する。	ア) 地震の大まかな発生メカニズムと被害を理解する。 イ) 津波の大まかな発生メカニズムと被害を理解する。 ウ) 台風や集中豪雨の大まかな発生メカニズムと被害を理解する。 エ) その他の災害の大まかな発生メカニズムと被害を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マグニチュード</li> <li>・ プレート</li> <li>・ 断層</li> <li>・ (海溝型地震と直下型地震)</li> <li>・ 大型台風</li> <li>・ 台風の進路</li> <li>・ 局地的大雨</li> <li>・ 積乱雲</li> <li>・ 洪水</li> <li>・ 内水</li> </ul>
	(3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。	ア) 東日本大震災や過去の災害を理解する。 イ) 東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東日本大震災</li> <li>・ 津波てんでんこ</li> <li>・ 津波浸水エリアの表示</li> <li>・ 震災遺構</li> <li>・ 語り部</li> </ul>
	(4) 災害防止や復旧・復興	ア) 地域の関係機関の人たちによる東日本大震災から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフラインの復旧</li> <li>・ 被災地支援</li> </ul>

	に関する取組を理解する。	の復旧・復興の様子を理解する。(公助)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害ボランティア</li> <li>・ 震災廃棄物(がれき)の処理</li> <li>・ 仮設住宅</li> <li>・ まちづくり</li> </ul>
B 危険から命を守る方法に関すること。	(1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。	<p>ア) 通学路の「こども 110 番の店・家」を知る。</p> <p>イ) 災害から身を守る方法を理解する。 (地震、津波、風水害、雷)</p> <p>ウ) 場所や時刻、状況の違いによる身を守る方法を理解する。</p> <p>エ) 校庭の避難場所への避難の仕方を理解する。</p> <p>オ) 地域の一時避難場所と避難所を知る。(公助)</p> <p>カ) 自宅から一時避難場所・避難所までの避難経路を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「こども 110 番の店・家」</li> <li>・ ダンゴムシのポーズ</li> <li>・ シェイクアウト訓練</li> <li>・ 防災頭巾</li> <li>・ 「お・は・し・も」(押さない・走らない・しゃべらない・戻らない)</li> <li>・ 避難準備、避難指示(緊急)</li> <li>・ ハザードマップ</li> <li>・ 垂直避難</li> <li>・ 津波避難(タワー、ビル、丘)</li> </ul>
	(2) 情報を生かす方法を理解する。	<p>ア) 天気予報や気象情報、防災情報の内容と入手の仕方を理解する。</p> <p>イ) 災害時の心の変化と行動を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアメール</li> <li>・ 緊急地震速報</li> <li>・ 注意報、警報、特別警報</li> <li>・ ナウキャスト</li> <li>・ 防災情報アプリ</li> <li>・ 災害用伝言ダイヤル</li> <li>・ 正常性バイアス</li> <li>・ 風評被害</li> </ul>
	(3) 応急手当の方法を理解する。	<p>ア) 出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。</p> <p>イ) AED の機能と設置場所を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 止血法</li> <li>・ AED</li> </ul>
	(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。	<p>ア) ライフラインが止まったときに生き抜くための知恵を理解する。</p> <p>イ) 避難所での生活の仕方と役割を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフラインの代替手段</li> <li>・ 炊き出し</li> <li>・ エコノミー症候群</li> <li>・ 心のケア</li> </ul>

C 日常の 備えに 関する こと。	(1) 家庭での 備えを理解 する。	ア) 家庭での設備に関する備 えを理解する。 イ) 家庭での物資や食料に関 する備えを理解する。 ウ) 災害時の家庭内の約束や 役割分担の大切さを理解 する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「お・た・い・わ」(落 ちない・倒れない・移動 しない・割れない)</li> <li>・ 防災資機材</li> <li>・ 家具の転倒防止</li> <li>・ 非常用持ち出し品</li> <li>・ 非常備蓄品(災害食)</li> <li>・ 防災家族会議</li> </ul>
	(2) 学校や地 域での備え を理解する。	ア) 学校の防災への取組を理 解する。 イ) 地域の防災への取組を理 解する。(公助) ウ) 避難訓練の大切さを理解 する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 備蓄倉庫</li> <li>・ 避難訓練</li> <li>・ 地域防災訓練</li> <li>・ SBL(せんだい防災リ ーダー)</li> </ul>

※仙台市立七郷小学校「防災安全科」、防災士教本(日本防災士機構)等を参考に作成。

## 教科書等における防災に関する内容

防災と気候変動に関する内容が学習指導要領と教科書等のどの学年の何の教科・領域に位置付けられているかは、次のとおりである。

防災に関する内容は、学校安全（生活安全、交通安全、災害安全）の一つであり、発達段階に応じて全学年で扱われている。教科・領域は、社会、理科、生活、家庭、体育（保健）、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間（単元として設定した場合）、特別活動と多岐にわたっている。

教科書（東京書籍等）を見ると、社会では、4年「地震からくらしを守る」、5年「自然災害を防ぐ」、6年「震災復興の願いを実現する政治」が防災の単元として設定されている。理科では、単元の中の一部に防災の内容が扱われている。生活では、「まちたんけん」の中で安全の視点を取り上げられている。体育の保健分野では、「自然災害によるけがの防止」が題材として設定されている。特別の教科 道徳では、「節度、節制」や「命の尊さ」などの価値が防災の自助と共助に関連する。特別活動では、学校行事として自然災害を想定した避難訓練、学級活動で安全副読本等を活用した防災を全学年で扱う。防災の内容は含まないが、防災に関する意見文を書くなど、国語との関連も図ることができる。

このように、防災に関する内容は各学年の様々な教科・領域に散在している。それらに関連させて横断的に学習するプログラムを作成・実践することによって、育てたい資質・能力である自助と共助の防災力をより身に付けさせることができると考える。

教科書等における防災に関する内容

学年	社会	理科	生活	家庭	体育	道徳	総合	特活
1			○			○		◎
2			○			○		◎
3	○	○				○	◎	◎
4	◎	○				○	◎	◎
5	◎	○		○	◎	○	◎	◎
6	◎	◎				○	◎	◎

◎：単元・題材が設定されているもの（総合は設定した場合） ○：関連するもの

※家庭の教科書は開隆堂、特活の副読本は教育出版、それ以外は東京書籍を使用。

## 防災学習の内容の取扱い例

発達段階を考慮して各学年においてどの内容を取り扱うかを以下のように設定した。

内容の構成	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 災害等の理解 に関すること					災害の特徴 発生メカニズム（地震、津波、風水害）	
B 危険から命を守る方法に関する こと	身の守り方 （地震、風水害）					
C 日常の備えに関する こと			災害への備え （対策、災害食）			
D 危険の予測・ 判断に関する こと	各学年ともに設定した単元や避難訓練等で取り扱う。					
E 支援者の基盤 に関すること	各学年ともに道徳等で取り扱う。					
F 社会貢献に関する こと			家庭に役立とうとする。		地域に役立とうとする。 教訓の伝承	

1、2年生では、主にB「命を守る方法」を取り扱い、地震や風水害の危険から身を守る方法や避難の仕方を身に付けさせる。3、4年生では、主にC「備え」を取り扱い、日頃からの防災への備えを家族とともに行わせる。5、6年生では、主にA「災害の理解」を取り扱い、災害の特徴や発生メカニズムを理解させる。D「予測・判断」に関しては、各学年ともに設定した単元や避難訓練等で取り扱う。E「支援者の基盤」に関しては、各学年ともに道徳等で取り扱う。F「社会貢献」に関しては、3、4年生で家庭に役立とうとする態度、5、6年生で地域に役立とうとする態度を育てる。さらに、6年生では、災害の教訓を受け継いでいこうとする態度も養う。